

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 57人

② 算数 57人

③ 理科 57人

5 留意事項

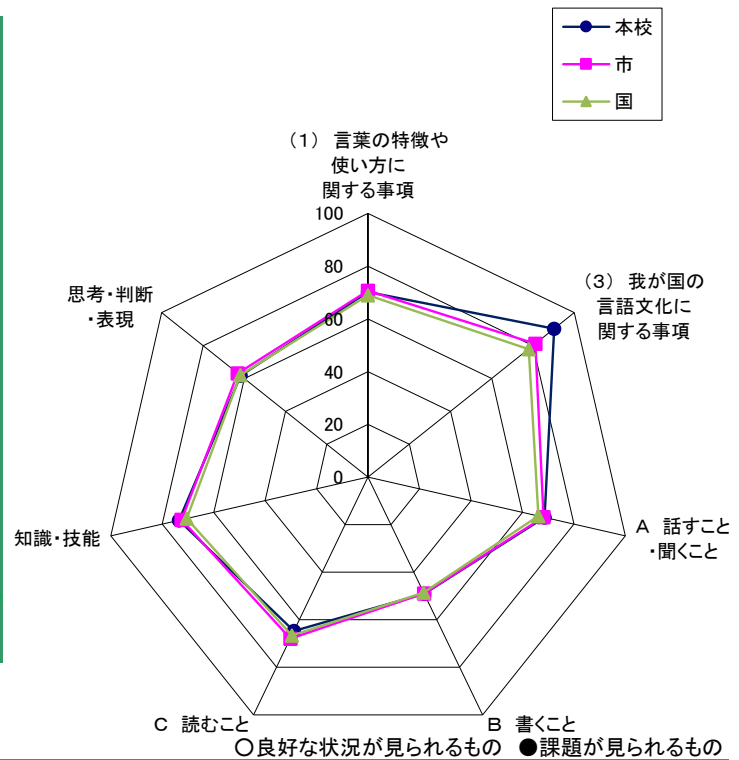
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.2	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	90.2	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	68.6	68.2	66.2
	B 書くこと	49.0	48.9	48.5
	C 読むこと	64.7	67.9	66.6
観点	知識・技能	73.5	72.5	70.5
	思考・判断・表現	61.8	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

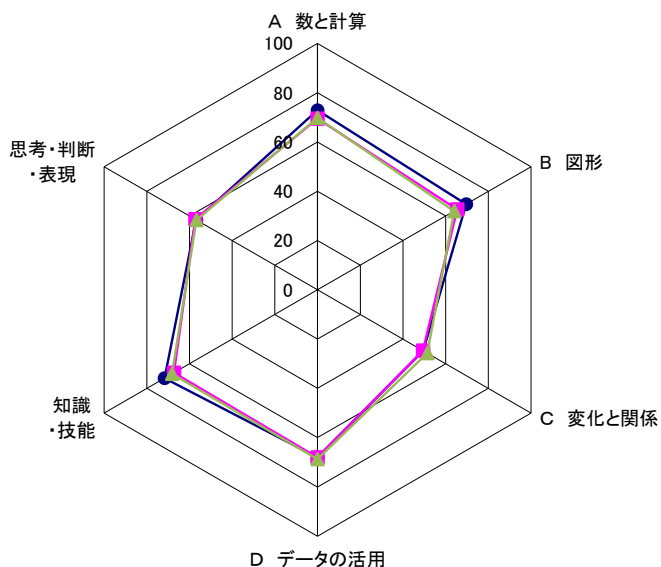
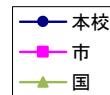
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は全国平均を1.2ポイント上回っている。 ○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」についての設問の平均正答率は、全国平均を上回っている。 ●「発言の理由として適切なものを選択する」についての設問の平均正答率は、全国平均を8.0ポイント下回っている。	・文学作品の読書を推進するとともに、言葉の意味調べなどを適宜行い、語彙を増やせるようにする。 ・漢字の定着を促すために、今後も継続的に漢字練習に取り組ませていく。 ・設問の意図を明確に捉えられるよう、言葉と言葉のつながりを意識させる指導を心掛ける。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は全国平均を12.3%上回っている。	・漢字や仮名の大きさ、配列の関係など、文章を書く上で基本となる事項を繰り返し指導し、定着を図る。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は全国平均を2.4ポイント上回っている。 ○「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」についての設問の平均正答率は、全国平均を7.2ポイント上回っている。 ●「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」についての設問の平均正答率は、全国平均を3.7ポイント下回っている。	・自分の意見をまとめたり、学習を振り返って話し合ったりする機会を多く設定し、表現力の向上を図れるようにする。 ・基本的な話し方や聞き方の型や工夫の仕方を示し、話し手が伝えたいことを捉えながら聞いたり、話題に沿って効果的に質問したりする力を伸ばせるようにする。
B 書くこと	○平均正答率は全国平均とほぼ同じである。 ○「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」についての設問の平均正答率は、全国平均を3.5ポイント上回っている。 ●「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」についての設問の平均正答率は、全国平均を2.3ポイント下回っている。	・書く活動を多く設定し、文章を書くことに慣れさせるようにする。 ・様々な文章例を基に、文章全体の構成を捉えられるよう指導する。 ・誰に「何のために」書くのかという相手意識や目的意識をはっきりもてるような課題設定の工夫を図る。 ・文章表現の工夫のポイントを示すとともに、文章を読み返してより良い文章に書き直させる機会を適宜設け、書く力の向上を図る。
C 読むこと	○「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」についての設問の平均正答率は、全国平均を2.3ポイント上回っている。 ●平均正答率は全国平均を1.9ポイント下回っている。 ●「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」についての設問はの平均正答率は、全国平均を7.9ポイント下回っている。 ●「登場人物の行動や気持ちを、叙述を基に捉える」についての設問の平均正答率は、全国平均を3.7ポイント下回っている。	・文章中の様々な描写に注目させ、何が読み取れるか確かめることで、人物像を想像したり登場人物の関係を捉えたりできるようにする。 ・課題についての考えを友達と話し合う場を設定し、自分の考えを深められるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.9	69.5	69.8
	B 図形	69.6	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	49.5	49.3	51.3
	D データの活用	68.0	68.0	68.7
観点	知識・技能	71.7	67.3	68.2
	思考・判断・表現	56.9	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

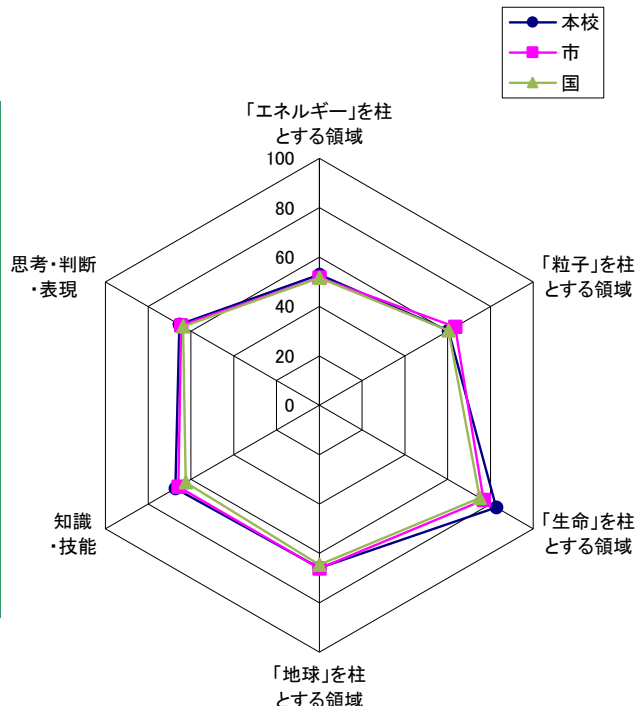
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○平均正答率は全国平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○「14と21の最小公倍数を求める」についての設問の平均正答率は、全国の平均を12.1ポイント上回っている。</p> <p>○「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述する」についての設問の平均正答率は、全国の平均を10.7ポイント上回っている。</p> <p>●「カップケーキ7個の値段を、$1470 \div 3$で求めることができる理由を記述する」についての設問の平均正答率は、県の平均を3.5ポイント下回っている。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習において、計算ドリルやAIDリルを繰り返し行うことで、基礎的な計算力を高める学習活動を継続する。</p> <p>・文章問題に取り組む際に、じっくりと考える時間をつくり、問われていることや文章の内容を正しく読み取り、立式する力を身に付けられるようにする。また、立式に至るまでの過程を説明できるよう指導する。</p>
B 図形	<p>○平均正答率は全国平均を5.6ポイント上回っている。</p> <p>○「辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかきことができるプログラムを選ぶ」についての設問の平均正答率は、全国の平均を10.0ポイント上回っている。</p> <p>○「正方形のプログラムを基に、長方形のプログラムについて考える」についての設問の平均正答率は、全国の平均を7.0ポイント上回っている。</p> <p>●「示されたプログラムでかきことができる図形を選ぶ」についての設問の平均正答率は54.9%と低く、全国の平均を2.7ポイント下回っており、課題がみられる。</p>	<p>・図形の性質について、再度確認を行う。</p> <p>・図形についての感覚を豊かにするため、必要な場面においてコンピュータを適切に活用する。また、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるため、正確な繰り返し作業を行い、更に一部を変えることでいろいろな図形を同様に考えることができるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>○「百分率で表された割合と基準量から比較量を求める」についての設問の平均正答率は、全国の平均を2.1ポイント上回っている。</p> <p>○「百分率で表された割合を分数で表す」についての設問の平均正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>●平均正答率は、全国平均を下回っている。</p> <p>●「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」についての設問はの平均正答率は、県の平均を6.8ポイント下回っている。</p>	<p>・伴って変わる2つの量における「基準量」と「比較量」をどの問いにおいても明確に示し、「数量」と「倍」について数直線を活用しながら、視覚的に捉えられるように配慮する。</p> <p>・児童が学習においてまず課題を想定し、関連するプリント類やAIDリル等を活用して、個に応じて取り組める場を設定する。</p> <p>・問題を解決するために既習の何をを用いて、どのように処理するとよいのかを問い直し、理解の定着と自力解決につながるように振り返りの場を位置付ける。</p>
D データの活用	<p>○「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る」についての設問の平均正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>○「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目してある項目に当たる数を求める」についての設問の平均正答率は74.5%を示し、一定の理解が見られる。</p> <p>●平均正答率は、県の平均をやや下回っている。</p> <p>●「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉えて考察する」についての設問の平均正答率は、県の平均を2.1ポイント下回っている。</p>	<p>・データの傾向や特徴が明確になる統計のよさや有用性に気付けるように、探究的な活動や身近な場面におけるデータ処理の課題を設定し、目的意識をもって取り組めるようにする。</p> <p>・授業者が提示する内容だけでなく、自分たちが行った問題設定や集めたデータ、表やグラフを用いての分析など、児童が自分でデータを整理し、結論までまとめるといった必然性のある学習を取り入れる。</p> <p>・児童が学習においてまず課題を想定し、関連するプリント類やAIDリル等を活用して、個に応じて取り組める場を設定する。</p>

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.9	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	60.4	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	82.7	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	65.9	66.1	64.6
観点	知識・技能	67.3	65.9	62.5
	思考・判断・表現	65.4	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、全国の平均を1.3ポイント上回っている。</p> <p>○「日光の位置の変化を基に、実験方法を見直し新たに追加した手順を書く」についての設問の平均正答率は76.5%で、全国の平均を8.1ポイント上回っている。</p> <p>●「問題に対するまとめから、その根拠を実験結果を基にして書く」についての設問の平均正答率は33.3%で、全国の平均を1.8ポイント下回っている。</p> <p>●「鏡を操作して指定した的に反射させた日光を当てることができる人物を選ぶ」についての設問の平均正答率は23.5%で、県の平均を6ポイント下回っている。</p>	<p>・4領域の中で最も正答率が最も低い。定期的に学習内容を復習する時間を設け、知識の定着を図るとともに、科学的な思考を育てるような活用問題に取り組ませていく。</p> <p>・実験結果の表から読み取れる内容の解釈について、実験過程に着目して解答を記述した児童の割合が低かった。実験の際、実験経過や様子についても結果として記録させたり考察させたりすることを通して、結果を分析し、自分の考えを記述する力を伸ばせるようにする。</p> <p>・日光が直進することを理解していないと思われる解答が多かった。実験の結果を基になぜそうなるのか考察させるとともに、検証実験をすることで、知識を体験的に理解できるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○「液体の体積を測り取る器具の名称を書く」などの知識を問う設問の平均正答率は、全国の平均を大きく上回っている。</p> <p>●平均正答率は、市の平均を3.1ポイント下回っている。</p> <p>●「水溶液の凍り方について、実験結果を基に問題に対するまとめを選ぶ」設問の平均正答率は54.9%で、全国の平均を7.9ポイント下回っている。</p> <p>●「凍った水溶液について、試してみたいことを基に見出された問題を書く」についての設問の平均正答率は25.5%で、国や県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・設定した学習問題に即して結果を分析したり答えを考えたりできるよう、考察の際に問題の内容を確かめさせたり、考える時間を十分に確保したりできるようにする。</p> <p>・知識として得た情報を基に問題を見出したり新たな課題を設定したりできるよう、視点を示して学習内容を振り返らせたり、発展的な学習を取り入れたりする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、市や全国の平均を大きく上回っている。</p> <p>○生命領域の5つの設問全てで、県や全国の正答率を上回っている。</p> <p>○「育ち方と食べ物の表を基に問題を見出して選ぶ」についての設問の平均正答率は76.5%で、全国の平均を10ポイント以上、上回っている。</p>	<p>・自然や生命を大切にしようという思いを高めるような指導を心がけるとともに、生命に関する問題に児童が主体的に取り組めるような活動を適宜設定する。</p> <p>・観察などで得られた複数の情報を関連させながら自分の考えをもてるよう、情報の整理の仕方や読み取り方を示すとともに、話し合い活動の充実を図れるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを書く」についての設問の平均正答率は86.3%で、全国の平均を4ポイント上回っている。</p> <p>●「鉄棒に付着した水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く」についての設問の平均正答率は56.9%で、全国の平均を5.1ポイント下回っている。</p>	<p>・根拠や理由を示しながら自分の考えを説明することができるよう、考察の際には、実験結果を確かめるとともに、結果のどの部分に着目したのかなど、視点を明らかにして考えさせるようにする。</p> <p>・基礎的な知識の定着を図れるよう、補充プリントやAIDリル等を活用する。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標をもっていますか」の質問への肯定的回答の割合が県や全国の平均を5ポイント以上回っている。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の質問への肯定的回答の割合は県の平均を9.8ポイント、全国の平均を13.7ポイント上回っている。児童は難しいことに関しても粘り強く取り組み、将来の夢に向かって努力してこうという態度が感じられる。今後もこのような姿を大切に生活できるよう、児童の頑張りや称賛していく。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問への肯定的回答の割合は89.2%で、県の平均を13.1ポイント、全国の平均を17.5ポイント上回っている。学習や生活の様々な場面で、異なる意見を否定せず受け入れたり、互いに学びあったりする態度が身に付いてきた成果と考えられる。今後も言語活動を充実させ、児童の深い学びにつなげていく。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に対する肯定的回答は、県の平均を15.4ポイント、全国平均を19.4ポイント上回っている。地域や社会に対する子供たちの思いを大切にしつつ、小さなことから実践できるよう働きかけていく。

○「学級の友達と間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができますか」の質問への肯定的回答の割合は、87.9%と県の平均を5.8ポイント、全国の平均を7.8ポイント上回っている。これは、本校の重点目標である、「言語活動の一層の充実により対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成」に取り組んできた成果と思われる。今後も話し合い活動を多く設け、互いに学び合うことを楽しめる学習集団を育成していく。

●「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問への肯定的回答の割合は60.3%で、県の平均を10.7ポイント、全国の平均を11.2ポイント下回っている。携帯電話等の使い方については、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール」などを利用し、使い方やルールを守ることの大切さを伝えるとともに、学年だより等で保護者への啓発を図っていく。

●「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問については、全員が肯定的な回答であった。しかし、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを、どの程度活用しましたか」の質問に対し、週1回以上(週3回以上・ほぼ毎日を含む)活用したと回答した児童は79.3%であった。これは、県の平均を7.6ポイント、全国の平均を3.9ポイント下回っている。また、「学校で授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」の質問については、週1回以上(週3回・ほぼ毎日を含む)と答えた児童の割合が72.5%であった。これは、県の平均を8.4ポイント、全国の平均を3.6ポイント下回っている。授業の様々な場面で、ICTを積極的に活用していく。

宇都宮市立岡本北小学校 (第6学年)

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」を踏まえた基本的な学習態度の徹底及び創意工夫した家庭学習の習慣化	「学習の約束」を活用して基本的な学習態度の定着を図るとともに、「めあて」「まともめ」「ふりかえり」の掲示物を授業で活用し、宇都宮モデルを意識した授業づくりを進めている。 「家庭学習のすすめ・手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた学習時間の確保と家庭学習の充実を図れるようにしている。	粘り強く学習に取り組む児童が増えた様子が伺える。昨年度の学力調査と比較しどの教科においても平均正答率が上昇し、基本的な学習内容の定着が見られ始めた。 1日当たりの家庭学習時間については、国や県の平均を下回っている。特に「全くしない」と答えた児童の割合は県の平均を大きく上回り、その傾向は平日よりも休日の方が顕著である。児童の実態に即した家庭学習の与え方、学習意欲を向上させる取組の在り方に課題が見られる。
言語活動の一層の充実により、対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成	児童が主体的に取り組める課題を設定し、単元や本時のねらいの達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 自分の思いや考えを安心して表出できるような学級集団を醸成するとともに、振り返りの時間を確保し、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」と「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」への肯定的回答は、国や県の平均を大きく上回っている。一方、「学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動を行っている」への肯定的回答は国や県の平均を大きく下回っている。
1人1台端末を用いてICTを活用した授業の展開や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着	ICT支援員と協力し、タブレット端末の機能を生かした授業を構成したり、行事等での活用を進めたりしている。また、家庭や児童との連絡ツールとしての利用も進めている。 AIドリルの活用方法を検討・実践し、情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。	「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」への肯定的回答は、国や県の平均を大きく上回っている。一方、ICT機器の利用について「友達との意見交換に使用する」や「ICT機器を使って自分の考えをまとめ、発表する」という使用頻度に関する質問については、国や県の平均を大きく下回っている。タブレット端末の授業における活用について、課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基本的な学習内容の定着と個別の支援、家庭学習の在り方の工夫	どの子にも「分かる」「できる」実感を生む学習指導・支援の実践と、家庭学習の工夫と習慣化	児童一人一人の到達度や理解度をもとに、授業形態や授業の展開、個別の支援の工夫を行うとともに、それぞれの学級の様子について学年間の共通理解を図り、学級、学年全体の学力向上へ繋げられるようにする。 家庭学習を①(個に応じた)必須の課題、②自主学習の二本立てとする。①で基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化を図るとともに、②で学習の計画を立てたり個々に目標をもたせたりすることで、各学年の発達段階で求められる学びの調整力と、一人一人の学習意欲の向上を図れるようにする。